Customer CASE STUDY

Lakehouse Platformを活用して、未来予測型オペレーションの実現を目指す。

オムロン ヘルスケア株式会社

オムロン ヘルスケア株式会社は、「地球上の人びとの健康ですこやかな生活への貢献」というミッションを掲げ、家庭用・医療用健康機器の開発・販売、健康管理ソフトウェアの開発・販売、遠隔診療サービスや健康増進サービス事業の展開などを行っている電子機器メーカーである。血圧計、体温計、低周波治療器、歩数計/活動量計などが代表的な製品であり、血圧計の累計販売台数は、世界で3億台を突破している。

オムロン ヘルスケア株式会社
経営統轄部
グローバルIT革新部
マネージャー
川平 航 氏

オムロン ヘルスケア株式会社
経営統轄部
グローバルIT革新部
基幹職
山谷 孝史 氏

ハイライト

単一のプラットフォームですべての分析ユースケースに対応可能！

高速でスケーラブルな計算リソースを確保！

ベンダーロックインのリスクを回避！

チャレンジ

「何が起こったのか」から「これから何が起こり、それにどう対応するのか」へ。

同社のグローバルIT革新部のミッションの1つが「新しいビジネスモデルの構築に向けて、AI・機械学習などアナリティクスの技術を通してインサイトを発見し、ビジネス価値の創出に貢献する。」であり、このミッションに基づき「社内DX」を2021年度より開始をしている。DXの定義は各社によって異なるが、同社では、量的なデータ分析とAI活用に基づく、意思決定の自動化と合理的な意思決定の実現により、素早く意思決定し、素早く行動に移せる世界の実現を目指している。その上で、人が行うのは、リスクをもいとわない未来に向けた挑戦と実行であると考えており、結果として多くの社員のチャレンジする時間を増やし、多くの成果が生まれ、社員自らが人生価値を最大化できることを期待している。

同ミッションを実現するために重要なキーワードが「未来予測型オペレーション」である。これは、日々新たに蓄積されるビジネスデータを分析・活用する事で、良い意思決定、良い行動が実現できるというものである。つまり、未来に対する企業の意思決定・行動の最適化を、データとAIを活用して実現を試みる活動である。これにより、これまでは「何が起こったのか」という過去の分析に焦点をおいていたものから、これからは「これから何が起こり、それにどう対応するのか」という未来に取るべき行動に焦点をあてるようになるといった、意思決定プロセスの進化が期待できる。

採用理由

最大の理由は、単一のプラットフォームで、AIからBIまで全ての分析ユースケースに対応でき、データ分析に関わる全てのメンバーが効率的に協業が可能な点。

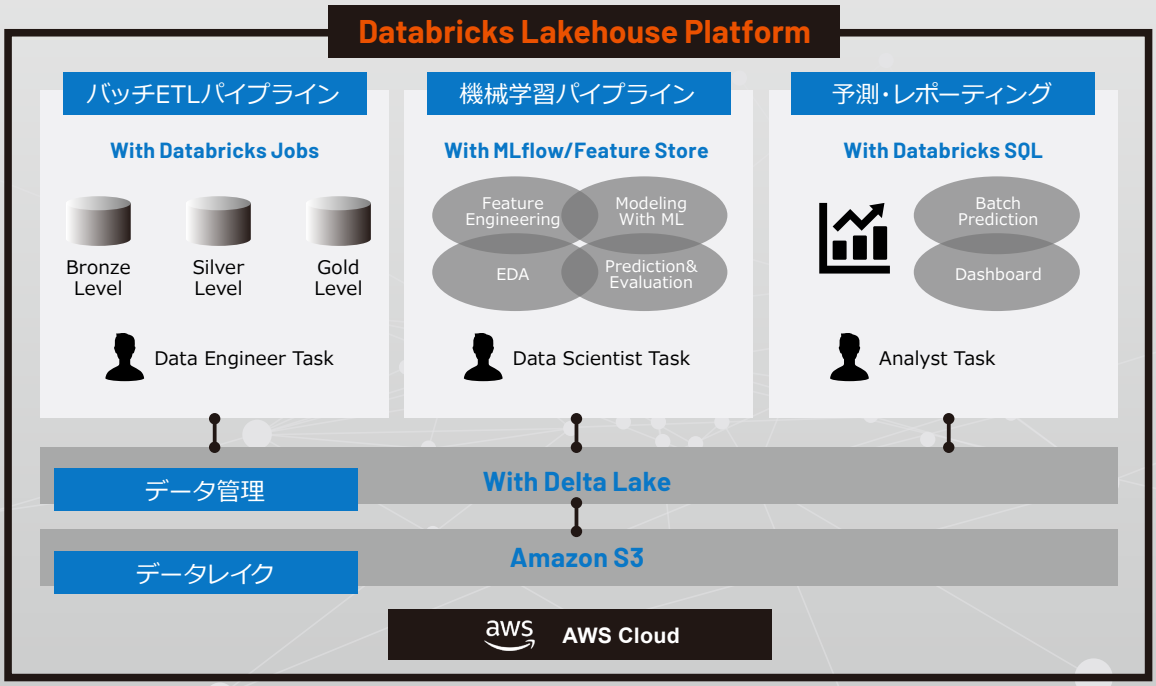
同社には、様々な組織やビジネスプロセスがあり、各々にこの「未来予測型オペレーション」の適応が可能であると考えている。具体的には、コールセンター音声分析による品質管理、サプライチェーンにおける在庫の最適化、経営管理における販管費の予測、マーケティングにおいてはプロモーション・ミックス最適化などが挙げられる。特定の分野ではなく、社内横断的に様々なユースケースを支援している。これは、データ分析から各部門で得られるインサイトは、全社的に活用できる為である。また、ステークホルダーとの信頼関係が成功の秘訣となるため、できる限り素早く試行錯誤を繰り返し、具体的な成果物を早い段階でシェアしテスト運用することを大事にしている。

これらの様々なデータ分析プロジェクトを行うためのデータ基盤として、データブリックスのレイクハウス・プラットフォームを活用している。データブリックスを採用した最大の理由は、単一のプラットフォームで、AIからBIまで全ての分析ユースケースに対応でき、データ分析に関わる全てのメンバーが効率的に協業が可能な点である。データ分析のプロジェクトでは、ETL/ELT処理を行うデータエンジニア、機械学習を担当するデータサイエンティスト、そしてビジネス部門の協業が求められる。また、Spark による高速でスケーラブルな計算リソース、Delta Lake による透過的なデータ統合、そして、オープンソースベースであるため、ベンダーロックインのリスク回避ができる点も大きかった。加えて、データブリックス日本法人の手厚いサポートも高く評価をしている。

今後の期待

データやAIを活用した未来予測型オペレーションを実現し、素晴らしい未来を作る。

データ分析プロジェクトを進めていく上で、改めて3つことが大事であると感じている。1つ目は、相互理解を深めるためにも少しでも形を見えるようにするアウトプットファーストを心がけること。2つ目は、最初から100%の正解を探すのではなく、失敗を繰りかえしながら、早く正解を見つけること。3つ目は、ビジネス価値の創出にこだわること。分析検証の結果と実際の業務での成果はイコールではなく、うまくいかないポイントを正していくことが肝要である。

データやAIを活用した「未来予測型オペレーションの実現と定着」は、まだ始まったばかりであり、様々な困難が予想されるが、この取組が非常に素晴らしい未来を作ると信じている。

データ収集～分析～コミュニケーションアーキテクチャ